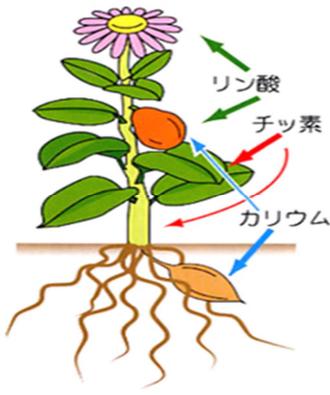


おおむたグリーンコンポストの使い方(参考)

■植物の生育に必要な主成分



チッ素 (N)	リン酸 (P)	カリウム (K)
葉【葉肥え】	実【実肥え】	根【根肥え】
最も大切な栄養素。葉や茎の育ちを良くし、葉の緑が濃くなる。	新しい細胞を作るのに必要な成分。花や果実に特に大切。	光合成を盛んにし、果菜類や特に根菜類の育ちを良くする。

	チッ素 (N)	リン酸 (P)	カリ (K)
・果菜類 (キュウリ、トマト・花など)	5	10	5
・葉菜類 (小松菜、春菊、白菜など)	10	5	5
・根菜類 (大根、人参、ゴボウなど)	5	5	10

■施肥量 (参考)

【農地用】※10a (アール) = 1,000㎡=約300坪=約1反

水田 (水稻・麦)	水田 (野菜)	畑 (野菜・施設野菜)	畑 (花木)
200~400kg 10a程度	300~400kg 10a程度	300~600kg 10a程度	400~600kg 10a程度

【家庭園芸用】※30㎡=約10坪

菜園・花壇	芝生	庭木	鉢・プランター
10kg 30㎡程度	0.1kg 1㎡程度	0.3~0.4kg 1㎡程度	全材料の 10分の1程度

■施肥方法の種類 (参考)

元肥	元肥	お礼肥	お礼肥
植物を植える前に、あらかじめ土に施す肥料です。 畑では、20~30cm掘って混ぜる。 緩効性肥料又は遅効性肥料を使うと効果的です。		花木や果実の開花後や収穫後に、弱った植物の回復を図るために施す肥料です。 速効性肥料を使うと効果的です。	
追肥	追肥	寒肥	寒肥
植物を植えた後、生長に応じて施す肥料です。畑では茎から20~30cm離して蒔く。速効性肥料と緩効性肥料を組み合わせると効果的です。		春の活動期にむけて花木や庭木の生長が休止している冬期に施す肥料です。 速効性肥料を使うと効果的です。	
置肥	置肥	種類	特徴
主に鉢植えの植物に使用され、土の上に置いたり、浅く埋めて施す肥料です。緩効性肥料又は遅効性肥料を使うと効果的です。		速効性肥料	施肥後、すぐに効果が現れるが長続きしない
		緩効性肥料	施肥後から効果が現れ、ゆっくり・長く効く
		遅効性肥料	施肥後しばらくたってから効果が現れ、ゆっくり長く効く